

守れ、大天守 一斉放水訓練

姫路城、文化財防火デー

世界文化遺産・国宝姫路城(姫路市本町)で26日、「文化財防火デー」にちなんだ消防訓練があった。姫路市消防局や姫路城管理事務所から約50人が参加し、大天守への放水や観光客の避難誘導の手順を確認した。文化財防火デーは、1949年に奈良県斑鳩町の法隆寺金堂であった火災により貴重な仏教壁画が焼失したことを受け、55年に制定された。

姫路城では毎年この日に合わせて訓練を続けており、今回は大天守3階からの出火を想定して実施した。火災報知機の作動を告げるサイレンが鳴り響くと、消防隊員は大天守閣下の広場「備前丸」に備えられた放水砲などで一斉に放水。避難誘導の職員が「落ち着いて指示に従ってください」と観光客らに声を掛ける手順を確認した。

響で、昨年に続いて規模は縮小した。市消防局の柏原浩明局長(60)は「姫路城は市民にとって心の支え。一番大事なのは火災を起こさないこと」と防火の重要性を語った。

(森下陽介)



姫路城で行われた消防訓練。水のアーチが大天守前で交差した。26日午前、姫路市本町(撮影・大山伸一郎)

名前【 】

① 26日、世界文化遺産・国宝姫路城で行われたのは何にちなんだ消防訓練ですか。

② それはいつのどんな出来事から制定されましたか。

③ 訓練はおもに二つのことが行われますが、何と何が行われますか。

④ 市消防局の柏原局長は、一番大事な何と言いましたか。

⑤ 今回の防火デーに姫路城のほかの場所で行われた消防訓練の場所や様子を調べてみよう。